

課題解決型研究プログラム 低炭素研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|--|
| <p>○観測研究、リスク研究、政策評価研究は、いずれも年度計画と中長期計画に対して期待以上の成果を上げ、研究の質が高く、環境問題の解決に繋がる成果が得られていると評価する。【年度】【見込み】</p> <p>○プロジェクト間の連携が進んでいることを評価する。【見込み】</p> <p>○炭素循環のみでなく、現在は窒素循環が喫緊の研究課題となっている。窒素循環の炭素循環に与える影響、相互作用というテーマをしっかりと掲げてほしい。【見込み】</p> |
|--|

今後への期待など

- | |
|---|
| <p>○異常気象の要因を分析して気候変動の関係を明らかにすることは時宜を得たテーマであり、今後とも実施していくことを期待するのに加えて、その成果が人々にさらに分かりやすく伝わることを期待する。【年度】【見込み】</p> <p>○陸域 CO₂ フラックスの変化に関して、間伐による効果が示されているが、課題解決につなげる観点から、多様な森林管理手法を含めた定量性がある比較なども期待する。【年度】</p> <p>○単なる濃度シナリオによる気温上昇だけではなく、具体的な緩和策に結びつく技術や社会システムとの結合にも期待する。【年度】</p> <p>○成果が実際の政策に活かされるように、より一層の環境省(必要に応じて他省庁)との協働を期待する。【見込み】</p> |
|---|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <p>① 人間活動による窒素循環の変化とその環境影響、さらに窒素管理を進めるための国際プロジェクト(INMS)に参加しています。炭素循環との相互作用を含め、所内連携を促進するため、次期中長期課題には窒素循環を軸とするプロジェクト案を地域センターや社会センターと共同で提出しています。</p> <p>② 異常気象の要因分析は今後も発展させてまいります。メディア等を通じた社会とのコミュニケーションにさらに取り組みます。</p> <p>③ 間伐について、チャンパー観測ネットワークでは、国内外の観測地でも、森林施業とCO₂フラックスの関係性を長期観測しています。その様な他の観測地における観測結果も取り込み、より汎用性の高い成果を出すことを考えております。</p> <p>④ 様々な技術情報を基礎として、どのように新しい技術を導入することが最も効果的かを明らかにするとともに、そうしたことを実現するための障壁とそれを克服するための方策についても検討していきたいと考えています。</p> <p>⑤ 国内政策に関する取り組みについては、これまでも統合プログラムと連携して環境省と意見交換を通じて結果を提供してきました。国環研だけで取り組むことには限界もあり、関連するステークホルダーとも連携して、取り組むことが重要と考えています。</p> |
|--|